

令和5年度 第2回 部活動の地域移行のあり方検討委員会 議事要旨

令和6年3月4日（月）15:00

神戸市産業振興センター 904・905号室

1. 事務局報告

- (1) 今年度の本市における推進事業
 - ・垂水区での合同部活動の現状について
 - ・文化活動系の部活動について
- (2) 今後の方向性について
 - ・神戸市の地域移行に向けた今後のロードマップ
 - ・他都市の地域移行に対する取組状況について

2. 各委員による意見等

- (1) 今年度の本市における推進事業

○垂水区の合同部活動の現状について

(委員) 今回は運動部のみで行っているのか？

(委員) 合同クラブ活動は、自分の学校でできる部活動も含まれるのか？

→ (事務局) 合同部活動は運動部のみで行っており、自校で行える活動も合同で行っている。
部の中には、人数が多くなって活動しづらい種目もあった。

(委員) 参加した生徒や教員の意見は？

→ (事務局) 生徒は不安もあったが「同じ活動を人数増で実施できた」という声が多かった。
教員は、「休日の指導回数が減る」、「専門の指導者が入ることで技術指導が可能になった」という声があった。

(委員) 平日と休日の指導者が変わることで課題は何か？

→ (事務局) 地域指導者だけの指導はなく、いずれかの学校の教員が指導に当たっていたので、
指導差はなかったが、同区内であるため勝敗に関わるような踏み込んだ指導はなかった。

(委員) 従来の拠点校部活動との違いは何か？

→ (事務局) 学校部活動の場合、陸上などは場所があれば合同での活動が可能であり、団体競技
は戦術の違いもあり、合同には向いていない面が多い。地域移行後は合同での活動を地域で行
うことになる。今は過渡期で、意識改革が必要である。

(委員) 合同クラブを平日も実施することは難しいか？

→ (事務局) 完全下校が17時である本市において、平日1時間程の活動に指導者を当てていくこ
とは、人材的にも予算的にも難しいと考えている。

○文化的活動についてのご意見

(委員) 文化的活動を合同で行うメリットは大きい。大学や企業との連携について知りたい。

(委員) 吹奏楽では、いつもと違う指導者による指導には慣れているので、合同部活動には向いて
いる。ただ、楽器の移動に関しては課題が多いと考える

(2) 今後の方向性について

(委員) 合同チームについての考えは？特に自分の学校では成り立たない運動系部活動において、合同でチームを作るという可能性はあるか？

→ (事務局) 部がある学校同士の合同部活動は今も認められているが、人数の少ないところや、自校に部がない活動にも、参加できるようにしたいと考えている。合同チームとしても試合への出場は可能である。

(委員) 各区で事情が異なる。生徒数、部数、施設等に課題があり、希望教員を当てていくことも困難である。現在、廃部を進めている部についても、保護者等から復活希望の声が上がっている。

(委員：代読) 受け皿となりうる地域スポーツクラブからは、必要となる資格や条件の提示が欲しいと言われている。各区の代表団体が確定しているわけではなく、今後も会長中心に相談をさせていただきたい。

(委員) 現在の部活動顧問の教職員には部活動指導を手放したいと考えている人も多いが、部活をしたくて教員になった人もいる。希望する教員が、指導を続けられる制度を希望する。

(委員) 教職員の意識としても、学校の部活動の指導者から地域の文化スポーツ活動の指導者になるという意識を、広めていく必要がある。

→ (事務局) 令和6年度からの拡大実施期に向けて、新年度の顧問確定後に調査し、新チームとなる9月ごろから新しい取り組みを開始できるよう検討していきたい。

3. 委員長総括

神戸市は区ごとの人口差や地域性があり、多様化している現状からすると、国の縮図的状况になっている。地域課題に対して各区の校長、地域の代表の方で検討いただき、地域で解決することと、市全体であげて議論すべきことをボトムアップで具体的にあげていくしかないと思われる。

次年度はもう一歩踏み出した活動をすすめ、そこで出た課題を市教委にあげていただくことを強く希望したいと思う。各機関が密に連絡を取って来年度議論したい。

文化活動についても、検討すべき課題の解決に向けて各委員にご尽力いただきたい。